

Apache Struts2の prefix パラメータ処理の不備により 任意の Java コードが実行される脆弱性 (CVE-2013-2251) に関する検証レポート

2013/7/23 NTT データ先端技術株式会社 辻 伸弘 小松 徹也

【概要】

Apache Struts 2 に、任意の Java コードが実行される脆弱性が存在します。 この脆弱性は、DefaultActionMapper における prefix パラメータ処理時において、値を OGNL 式(※) として評価するため、任意の Java コードを実行可能です。

この脆弱性を悪用して、攻撃者はターゲットホスト上にて、AP サーバの動作権限で任意の Java コードの実行が可能です。

今回、この Apache Struts 2の prefix パラメータ処理の不備により任意の Java コードが実行される 脆弱性 (CVE-2013-2251) の再現性について検証を行いました。

※Object Graph Navigation Language Java オブジェクトのプロパティヘアクセス時に利用する式言語

【影響を受けるとされているシステム】

影響を受ける可能性が報告されているのは、次の通りです。

- Apache Struts 2.0.0から2.3.15

【対策案】

この脆弱性が修正された最新版 Apache Struts2 にアップデートしていただく事を推奨いたします。この脆弱性は、2.3.15.1 以降にて対策済みです。

Apache Struts Releases http://struts.apache.org/downloads.html

弊社の検査において、一般ユーザ権限でサーバを動作させていないシステムも見受けられます。この脆弱性は、APサーバの動作権限を奪取されることから、管理者権限ユーザで APサーバを動作させている場合、システムへの影響範囲が広がります。そのため、運用上必要かつ適切な権限にて動作させることを推奨します。

【参考サイト】

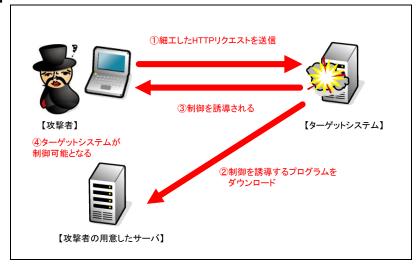
CVE-2013-2251

http://cve.mitre.org/cgi-bin/cvename.cgi?name=CVE-2013-2251

Apache Struts DefaultActionMapper Redirection and OGNL Security Bypass Vulnerabilities http://secunia.com/advisories/54118



【検証イメージ】



【検証ターゲットシステム】

・Debian 6.0.7 上の Apache Tomcat 7.0.42、Apache Struts 2.3.15 を利用した Web アプリケーション

【検証概要】

ターゲットシステムに、細工した HTTP リクエストを送信し、Struts を利用したアプリケーションを介して、AP サーバの動作権限で任意の Java コードを実行させます。

今回の検証に用いたコードは、ターゲットシステムから特定のサーバより、プログラムのダウンロードを行なった上で、そのプログラムを用いて、特定サーバのポートへコネクションを確立させるように誘導し、システムの制御を奪取するものです。

これにより、リモートからターゲットシステムが操作可能となります。

* 誘導先のシステムは Windows 7です。



【検証結果】

下図は、攻撃後の誘導先のシステム画面です。

下図の赤線で囲まれている部分の示すように、誘導先のコンピュータ (Windows 7) のターミナル上にターゲットシステム (Debian 6.0.7) のプロンプトが表示されています。

黄線で囲まれている部分の示すように、ターゲットシステムにおいて、コマンドを実行した結果が表示されています。これにより、ターゲットシステムの制御の奪取に成功したと言えます。



*各規格名、会社名、団体名は、各社の商標または登録商標です。

【お問合せ先】

NTT データ先端技術株式会社

セキュリティ事業部 TEL: 03-5859-5422

http://security.intellilink.co.jp